

# 彙報

第二十卷第三號 昭和九年三月

## 沼津港修築工事概要

(本文に就ては會員工學士木村憲七郎君の勞を煩はしたり、茲に感謝の意を表す。)

### 1. 箇所名並に工事種類

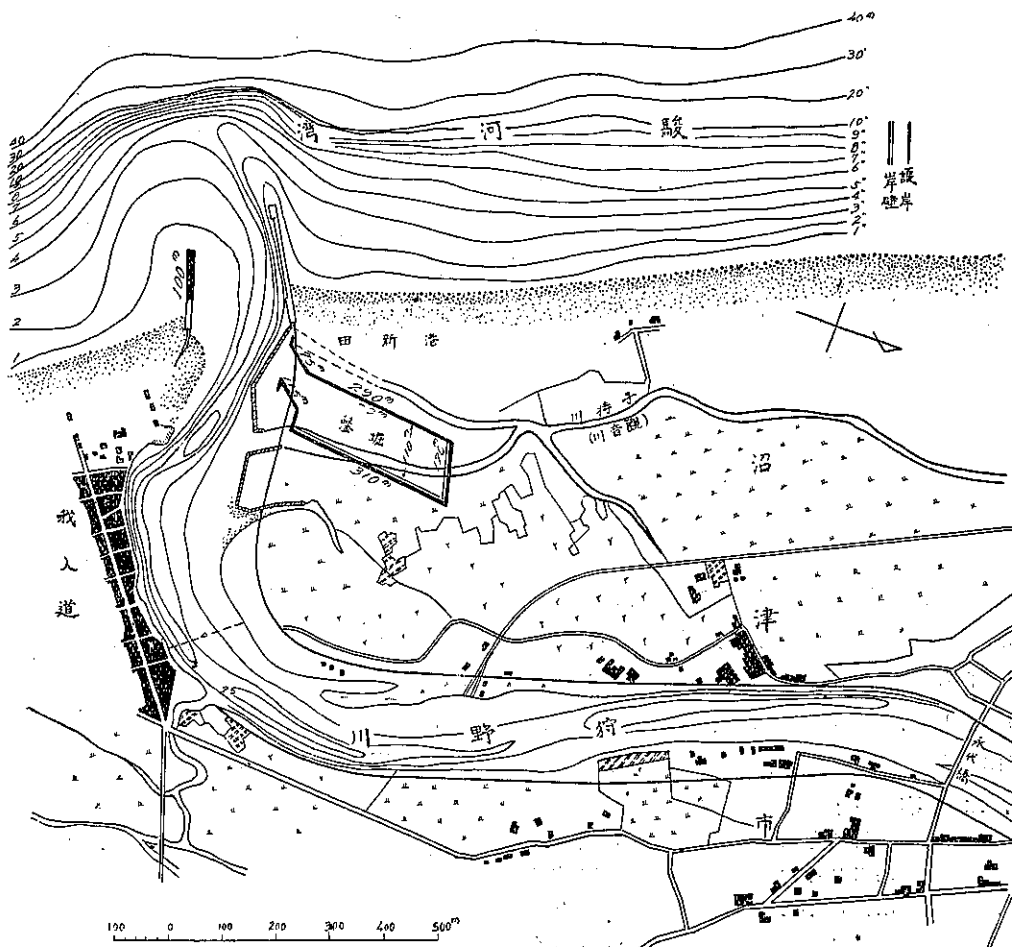
静岡県沼津市港新田字汐入

- (1) 岸壁工事
- (2) 護岸工事
- (3) 浚渫及び埋立工事
- (4) 防波堤工事

### 2. 計畫概要並に工事狀況

(1) **岸壁工事** 泊渠周囲 760 m 中、東側 310 m 及び北側 120 m に甲岸壁、西側に 290 m、南側 40 m に乙岸壁を築造す、孰れも鋼矢板造にして甲岸壁にはクロックナー式矢板 II 號型、長 8 m ものを乙岸壁には同式矢板 I 號型、長 7 m ものを建込み矢板背後上部は甲乙岸壁共 1/6 の勾配とし龜石張斜面物揚場とし、約 20 m 間隔に

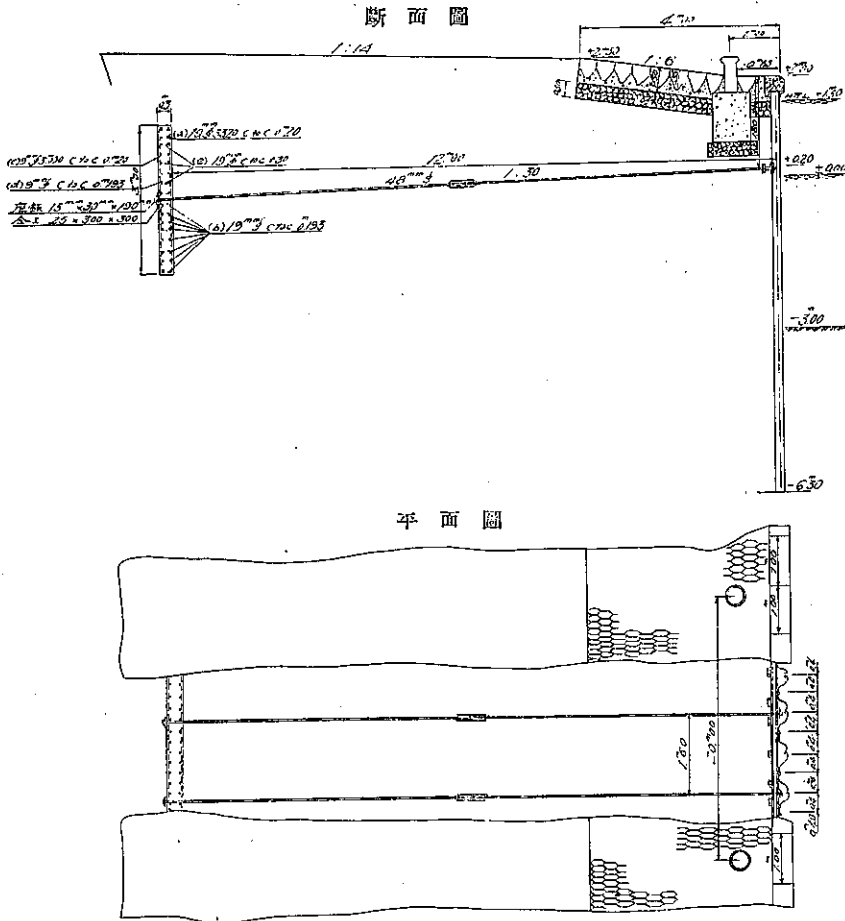
第一圖 沼津港平面圖



繫船柱を設け、船舶繫留に便ならしむ。泊渠は掘込式にして形状は大體菱形なり。幅 110 m、長 290 m、渠内水面積 32 000 m<sup>2</sup>を有し水深干潮面下 3 mを得せしむ。

(2) 護岸工事 渠口兩側に鋼矢板を以て延長 290 m の護岸を築造す。

第二圖 岸壁設計圖



(3) 浚渫及び埋立工事 船渠及び渠口は干潮面以下 3 m 迄掘墜をなすものにして、土量約 161 000 m<sup>3</sup> を岸壁裏埋及び港湾設備に必要な区域内の盛土所要量 50 000 m<sup>3</sup>、差引残土 111 000 m<sup>3</sup> は附近地の盛土に活用せんとするものなり。

(4) 防波堤工事 狩野川河口左岸既存防波堤に續き長 100 m、幅 10 m、高干潮面上 1.97 m の防波堤を設く。昭和 8 年度に於ける工事は甲岸壁 160 m、乙岸壁 80 m、掘墜立坪約 20 000 m<sup>2</sup> なり。

3. 工事費

昭和 8 年度	100 000 圓
昭和 9 年度	150 000 〃
昭和 10 年度	150 000 〃
計	400 000 〃

## 4. 主要材料

品名	数量	単價(圓)	製造工作販賣納入者	備考
鋼矢板	約 72 ton	190.00	(獨逸)クロックナー製鋼會社 龍多商店納	I 號型長 7 m II 號型 〃 8 〃
タイロット	約 666 本	50.00	大阪市菅兄弟鐵工所	I 號型 〃 9 〃 II 號型 〃 12 〃

5. 工事執行者 静岡縣

6. 計畫設計者 静岡縣土木部

7. 工事監督者 土木技師 原川 康

8. 施工方法 直營：浚渫埋土及び岸壁上部工

請負：鋼矢板打工，岳南組 勝又春一

9. 起工年月日 昭和 8 年 12 月 16 日

10. 竣工豫定年月日 昭和 11 年 3 月 31 日

## 下田港修築工事概要

(本文に就ては會員工學士木村憲七郎君の勞を煩はしたり，茲に感謝の意を表す。)

## 1. 箇所名並に工事種類

静岡縣賀茂郡下田町

(1) 岸壁工事 (2) 棧橋工事 (3) 防波堤工事

(4) 浚渫工事

## 2. 計畫概要及び工事狀況

昭和 8 年度工事 (實施中)

(1) 荷揚岸壁 平滑川合流點より上流へ延長 175 m, 幅 10 m の埋立をなし, クロックナー式鋼矢板 (II 型長 8.5 m) 使用, 前面水深 -3.0 m の漁船中小帆船用荷揚岸壁を築設す, 物揚場は幅 6 m の 1/60 勾配斜面龜石張を施し, 30 m 間隔に繫船柱を設置す。

尚ほ物揚場沿ひに幅 5.5 m の臨港道路築造の豫定, 本工事中鋼矢板工事は請負とし, 他は總て直營施行とせり。

(2) 棧橋 河口外鶴島地先棧橋延長 120 m 中本年度に於て 30 m 施工, 1 徑間長 4.5 m, 幅 7 m, 水深 -4.0 m を有する鐵筋コンクリート造にして 3 徑間毎に伸縮裝置, 30 m 間隔に繫船柱を設け主として客船用に供す。棧橋背後に浚渫土を以て約 5000 m<sup>2</sup> の埋立地を作り, 各種陸上設備區域に充て市街地への連絡用として幅 6 m, 延長 450 m (隧道) の道路を築造す。

(3) 防波堤 鶴島地先より犬走島に向ひ延長 50 m の防波堤の中 20 m を施工せり。

第一圖 下田港附近一覽圖

